



胡觀
音經
全



観音經和漢抄序

此抄法蓮紀經の三世法仏出世の事
六十餘年此樞要なりとわらうゆへに
もこの法經中五寶者第一と申ふも世尊
品二十八品乃衆難に要品此咽喉なりと
る因乃撰まへたる人のつくす具山り
は今の文とさへりて上下とれさあ西漢
てりし意考しすとい内乃三方とく
乃他人とくわら後おあま所説祖
とらて三五よとらてい抄の和
く眞教小

ありふるものわさあはよの海わらはあひ
 目とぬさねものもあま残念とてすあこと初
 きあしあまあつものとも終とあへてまやあり
 たしひ根柢加藻乃はもあつともすあつらぬ
 統しあつひの火災鬼難よあつ人も火坑あは
 て流とあつる波流とておあつるあつらし
 毛中のうく親老奴智力れうとく廣大あつら
 かりと海とあはつる慈眼親生福寿海雲
 の金又わあひくもなあまうく代しともあは
 ばよつとあはつものあり

親音神和法抄巻上目録

- 才一 多いぐうり事
- 才二 多んせとんの事
- 才三 ぼんりり事
- 才四 多んの事 有り ぬれ事
- 才五 多い二十ふ事
- 才六 多んとん事
- 才七 多んとん事
- 才八 多んとん事
- 才九 多んとん事
- 才十 多んとん事
- 才十一 多んとん事
- 才十二 多んとん事

十三 そのとらふしお乃る
 十四 かんどん乃利中 惣巻乃下
 十五 せんあんしお事
 十六 かりくれくあうの下
 十七 一あん志のうま乃下
 十八 燃せん乃し
 十九 燃せん乃し
 二十 まうのりえん乃し
 廿一 かんげお中とらん乃る
 廿二 ああん乃し
 廿三 さいらちしあんと乃る
 廿四 だうまいすいなんとのり
 廿五 かんげよあくすいなんと乃る
 廿六 風あん乃し

廿七 七実乃る
 付リ 派心事
 付リ しよこ乃る
 付リ さんころる
 廿八 あんどお室乃事
 廿九 あうあんと乃る
 三十 かんげおあくすりあうまん乃る
 卅一 たうらあうのなん乃る
 卅二 かんどんとせんしああ乃る
 卅三 かんげおあくすりあうまん乃る
 卅四 けい乃る
 卅五 りん乃る
 卅六 かんげおあくすりあうまん乃る
 卅七 鬼あん乃る

軍八 願一やらせのり
 軍九 多んけよ中くすのあん
 軍一 ちうのわのりあん
 軍二 くのくさるちけくわけ
 軍三 一もくわとかりわん
 軍四 多んけよ中くすのあん
 軍五 多んけよ中くすのあん
 軍六 ぬいん
 軍七 多ん
 軍八 多ん
 軍九 七あん

妙法蓮華經觀世音菩薩普門品第二十五

ありんばわうわんげまうのま字のすかりらわけ
 一教乃悲号あり 二 多んせとんわん
 多んけよ中くすのあん
 ちうのわのりあん
 くのくさるちけくわけ
 一もくわとかりわん
 多んけよ中くすのあん
 多んけよ中くすのあん
 ぬいん
 多ん
 多ん
 七あん

ととありて...
六 此の...
...
七 又...

余時無盡意菩薩即從座起偏袒右肩合掌
...
...

向佛而作是言

余時心驚乃起而告諸人曰

今此諸人等皆是我佛之弟子也... 世尊觀世音菩薩以何因緣名觀世音

佛告無量壽菩薩善男子若有無量百千萬

億衆生

億衆生... 若有無量百千萬億衆生

受諸苦惱

受諸苦惱... 若有無量百千萬億衆生受諸苦惱

聞是觀世音菩薩一心稱名觀世音菩薩即

時觀其音聲皆得解脫

Handwritten commentary in vertical columns, likely a sutra or a commentary on the sutra. The text is written in a cursive style and covers the right page of the manuscript.



若有持是觀世音菩薩名者設入大火火不

能燒由是菩薩威神力故

若入大火火不燒

若入大火火不燒... 觀世音菩薩威神力故... 若入大火火不燒... 觀世音菩薩威神力故... 若入大火火不燒...

若為大水所漂稱其名号即得淺處

若為大水所漂稱其名号即得淺處

若為大水所漂稱其名号即得淺處

若為大水所漂稱其名号即得淺處... 若為大水所漂稱其名号即得淺處... 若為大水所漂稱其名号即得淺處...

あはれねえ
[六] ひろくろのりくは神澤と云人産別と云
よひのしけ時ふらふら申く大風よあつりその時神澤
母怒ん乃のまよくは多んとん乃のまよくは多んとん乃のまよ
つまらふらふら申てなら申らは二人のせんころまひて
とまよならあどおしてわんとんよひふらふらふらふらふら
ふらわととまよのせんころまひてとまよふらふらふらふら
又のあまみまふらふらふらふらふらふらふらふらふらふら
神澤すあつらあつらとあつらとせんとんとんとんとんとん
[七] 又の図と云人産別と云浦と云つまよくとまよくとまよ
つまよくとまよくとまよくとまよくとまよくとまよくとまよ
わらふらふらふらふらふらふらふらふらふらふらふらふら
とれらふらふらふらふらふらふらふらふらふらふらふらふら
よひわらふらふらふらふらふらふらふらふらふらふらふら
あまふらふらふらふらふらふらふらふらふらふらふらふら
ふらふらふらふらふらふらふらふらふらふらふらふらふら

る経てしあつらふらふらふらふらふらふらふらふらふらふら
つまよくとまよくとまよくとまよくとまよくとまよくとまよ
に申すふ事おらふらふらふらふらふらふらふらふらふらふら
かんふらふらふらふらふらふらふらふらふらふらふらふら
さふらふらふらふらふらふらふらふらふらふらふらふらふら
ふらふらふらふらふらふらふらふらふらふらふらふらふら
ふらふらふらふらふらふらふらふらふらふらふらふらふら
ふらふらふらふらふらふらふらふらふらふらふらふらふら

若**有**百千萬億衆生爲**求**金銀瑠璃砗磲碼
碯珊瑚琥珀真珠等寶入於大海假使黑風
吹其船舫飄墮羅刹鬼國其中若**有**乃至一
人稱觀世音菩薩名者是諸人等皆得解脫

羅刹之難以是因緣名觀世音

あんまさん 四

室持をいらいしてつらぬちうすうつらふと

うぬちの中よりあつていへるせんりのとてん

本まそのつとむらして今とあると。海

のちちうそのあつてと漸くま。海

わとて。碑礫ハえらじれあつてそのつら

なそのつらあつてつらくとつらくとつら

うとあつて船は乃野は鬼なり。魚

船のつらうつ。大森のあつて七百里

と。あつて海はあつてあつてあつてあ

あ。あつてあつてあつてあつてあつてあ

後。あつてあつてあつてあつてあつてあ



子年あつて化してゆくもそのあつてはやくも
 千年に化してゆくもそのあつてはやくも
 五百年来に化してゆくもそのあつてはやくも
 りとめんあつてはやくもそのあつてはやくも
 海よそのの船室に百女の真実とてなすけり
 余利のわにの真実とてなすけり
其の珠も真くとぞ捨てん乃
因 龍神の神刺鬼玉とてなす
 けり外玉は百人の御子玉なりて杖に玉は
 よひよたらたつたのさるを鬼玉に御し
 くらつとらんせんせんはやくもそのあつてはやくも
 さあつ中に御したるのさるを鬼玉に御し
 ともめらちのたつたのさるを鬼玉に御し
 せんせんはやくもそのあつてはやくも
 考の疏よありたれり世のあんとてのさるを鬼玉に御し
 して観解よありたれり世のあんとてのさるを鬼玉に御し

てはやくもそのあつてはやくもそのあつてはやくも
 せんせんはやくもそのあつてはやくも

若復有人臨當被害稱觀世音菩薩名者彼

所執刀杖尋段段壞而得解脫

又聖人なり也

たらめはやくもそのあつてはやくも
 せんせんはやくもそのあつてはやくも
 元年中にせんせんはやくもそのあつてはやくも
 たらめはやくもそのあつてはやくも
 せんせんはやくもそのあつてはやくも
 元年中にせんせんはやくもそのあつてはやくも
 たらめはやくもそのあつてはやくも
 せんせんはやくもそのあつてはやくも

りてこれれあかりりるにハ改あちり我宗の常れ
合然しむと果然あちり日か少らんしむ
の然しむと果然あちり日か少らんしむ
然然乃時わらうらうらと云ハ彼室之様と云ハがんさくは
あんあちりこころ乃ち由るやハ繩あししてうらうらあ
けらさのらんそれやうらうらにけらるれはよまに
まぎわらあちりあちりして正法とありあちりなるはま
ゆらうらと云ハらんそんと移んせはあちり
あんこころあちり

若三千大千國土滿中怨賊有一商主將諸
商人齎持重寶經過險路其中一人作是唱
言諸善男子勿得恐怖汝等應當一心稱觀

世音菩薩名号是菩薩能以無畏施於衆生
汝等若稱名者於此怨賊當得解脫衆商人
聞俱發聲言南無觀世音菩薩稱其名故即
得解脫

いあしと云ぬとんころうらうらと云ハ法たりまふてすあちり

つまのちのけしと親者次郎一とてまのく
 二眼^{まなこ}と云は神も御をてむさるの所まあそとてあつた
 乃よまいけしとてまい日親者神也とてまつていふなりあつた丹
 波の必にまのけしと云は人びとていふなりとて親者次郎一といふ
 日のちのけしとてまのけしといふなりとて親者次郎一といふ
 介にまのけしとてまのけしといふなりとて親者次郎一といふ
 物とのけしとてまのけしといふなりとて親者次郎一といふ
 て法師れつとてまのけしといふなりとて親者次郎一といふ
 まのけしとてまのけしといふなりとて親者次郎一といふ
 せし親者にまのけしといふなりとて親者次郎一といふ
 ものけしとてまのけしといふなりとて親者次郎一といふ
 あつたけしとてまのけしといふなりとて親者次郎一といふ
 けしとてまのけしといふなりとて親者次郎一といふ
 んとてまのけしといふなりとて親者次郎一といふ



十三 かのしん乃る
 十二 ちやうしん乃る
 十一 けん乃る
 十 かん乃る
 九 さい乃る
 八 ちん乃る
 七 ちん乃る
 六 ちん乃る
 五 ちん乃る
 四 ちん乃る
 三 ちん乃る
 二 ちん乃る
 一 ちん乃る
 廿六 ちん乃る
 廿七 ちん乃る
 廿八 ちん乃る
 廿九 ちん乃る
 三十 ちん乃る
 廿一 ちん乃る
 廿二 ちん乃る
 廿三 ちん乃る
 廿四 ちん乃る
 廿五 ちん乃る
 廿六 ちん乃る
 廿七 ちん乃る
 廿八 ちん乃る
 廿九 ちん乃る
 三十 ちん乃る

廿六 ちん乃る
 廿七 ちん乃る
 廿八 ちん乃る
 廿九 ちん乃る
 三十 ちん乃る
 廿一 ちん乃る
 廿二 ちん乃る
 廿三 ちん乃る
 廿四 ちん乃る
 廿五 ちん乃る
 廿六 ちん乃る
 廿七 ちん乃る
 廿八 ちん乃る
 廿九 ちん乃る
 三十 ちん乃る
 廿一 ちん乃る
 廿二 ちん乃る
 廿三 ちん乃る
 廿四 ちん乃る
 廿五 ちん乃る
 廿六 ちん乃る
 廿七 ちん乃る
 廿八 ちん乃る
 廿九 ちん乃る
 三十 ちん乃る
 廿一 ちん乃る
 廿二 ちん乃る
 廿三 ちん乃る
 廿四 ちん乃る
 廿五 ちん乃る
 廿六 ちん乃る
 廿七 ちん乃る
 廿八 ちん乃る
 廿九 ちん乃る
 三十 ちん乃る

軍一 せん初の人の事
 軍二 せん初の人の事
 軍三 せん初の人の事
 軍四 せん初の人の事
 軍五 せん初の人の事
 軍六 せん初の人の事
 軍七 せん初の人の事
 軍八 せん初の人の事

二

若有衆生多於媯欲常念恭敬觀世音菩薩
 便得離瞋若多瞋恚常念恭敬觀世音菩薩
 便得離癡無盡意觀世音菩薩有如是等大
 威神力多所饒益是故衆生常應心念
 云云と云々の後

此の
 三

摩よおのりてとれあふ又玉さの夫いふおのりてあふ
 分らんあふらんあふのりてあふのりてあふのりてあふ
 けんんとあふあふあふあふあふあふあふあふあふ
 三 摩よおのりてとれあふ又玉さの夫いふおのりてあふ
 乃疏よつてあふあふあふあふあふあふあふあふあふ
 ときあふあふあふあふあふあふあふあふあふあふ
 あふあふあふあふあふあふあふあふあふあふあふ
 悪徳とあふあふあふあふあふあふあふあふあふあふ
 たくあふあふあふあふあふあふあふあふあふあふ
 何とあふあふあふあふあふあふあふあふあふあふ
 ゆくとあふあふあふあふあふあふあふあふあふあふ
 あふあふあふあふあふあふあふあふあふあふあふ
 あふあふあふあふあふあふあふあふあふあふあふ
 あふあふあふあふあふあふあふあふあふあふあふ
 あふあふあふあふあふあふあふあふあふあふあふ
 あふあふあふあふあふあふあふあふあふあふあふ
 あふあふあふあふあふあふあふあふあふあふあふ
 あふあふあふあふあふあふあふあふあふあふあふ
 あふあふあふあふあふあふあふあふあふあふあふ
 あふあふあふあふあふあふあふあふあふあふあふ
 あふあふあふあふあふあふあふあふあふあふあふ
 あふあふあふあふあふあふあふあふあふあふあふ
 四



おひきのあまのつうめいん親吉と今してまうくの福吉れ男子
とまうく金丸也。樹正も親とらみあさうのつうくもつれ
らうのんかみあこらふれうけさかうらあけまいたれあ
あしあものつうしあつん。宗柱徳也親人む鼓しかられん
とひしぜんんむりうらめらんけんらかたひひておとじ
まねさてらんめんよのらあうり^六とそなたをれあひ
あつたかえしれ親のひのよ求男求女とらととれあひ
しうらあしりあよ女とつあ男のつらあまのこのつ
あり中あまこまられたとのおのつうきしつらここの
まらうらあつんはとせらわらうたかみらうたはまら
まらゆあつんせんかめあつゆよよあつはつたあつた
とそしつたらんおつんすしひたはらまこ子のうらまは
あまにまそららのらよは後婦と女とらんうらあらら
せられたらけあつんすのたつひらつははははははは
あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた

ておひきのあまのつうめいん親吉と今してまうくの福吉れ男子
とまうく金丸也。樹正も親とらみあさうのつうくもつれ
らうのんかみあこらふれうけさかうらあけまいたれあ
あしあものつうしあつん。宗柱徳也親人む鼓しかられん
とひしぜんんむりうらめらんけんらかたひひておとじ
まねさてらんめんよのらあうり^六とそなたをれあひ
あつたかえしれ親のひのよ求男求女とらととれあひ
しうらあしりあよ女とつあ男のつらあまのこのつ
あり中あまこまられたとのおのつうきしつらここの
まらうらあつんはとせらわらうたかみらうたはまら
まらゆあつんせんかめあつゆよよあつはつたあつた
とそしつたらんおつんすしひたはらまこ子のうらまは
あまにまそららのらよは後婦と女とらんうらあらら
せられたらけあつんすのたつひらつははははははは
あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた

たりしうらやまのさびしき一あやまのいふはりていふうくとすしひるん
 あこれたぬおのゝさくさくといふあやまのいふはりていふうくとすしひるん
 七あやまのいふはりていふうくとすしひるん
 三あやまのいふはりていふうくとすしひるん
 わつらふいふはりていふうくとすしひるん
 乃のいふはりていふうくとすしひるん
 ころろと流るりもよきとていふうくとすしひるん
 引かたつらつらわきまをいふうくとすしひるん
 中まをいふはりていふうくとすしひるん
 一にほあるとていふうくとすしひるん
 けふさる人とのいふはりていふうくとすしひるん
 又ハ世といふはりていふうくとすしひるん
 百のいふはりていふうくとすしひるん
 ころろと流るりもよきとていふうくとすしひるん
 せしむるといふはりていふうくとすしひるん



無異於百千萬億劫不可窮盡

いん乃んころん

乃我映々なり六十二億八千萬のほろのころん
とけたりらとん一とあぐあはのらこのわひころん
とろと又もく一と見乃あひころんと人のころん
はるうらひい一とせまらることとひと一うして勝
勢のころん一と三つくのわひころんあはれこれあはれ
一とれうらひい一とせまらることとひと一うして勝
あはれころん六十二億八千万のほろのころん又
とんころん一とせまらることとひと一うして勝
とんころん一とせまらることとひと一うして勝

十

無量壽受持觀世音菩薩名号得如是無量
無邊福德之利

いんハセあんころん一とせまらることとひと一うして勝
もまらてり真のつとまらてり真のつとまらてり

乃ららるれあれまらてりころんあはれこれあはれ
くらりころんころんころんころんころんころん
とあんころんころんころんころんころんころん
のくとあはれまらてりころんころんころん

十一

無盡意菩薩白佛言世尊觀世音菩薩云何
遊此娑婆世界云何而為衆生說法方便之

力其事云何

乃ららるれあはれまらてりころんあはれこれあはれ
くらりころんころんころんころんころんころん
とあんころんころんころんころんころんころん
のくとあはれまらてりころんころんころん

三

佛告無盡意菩薩善男子若有國土衆生

びりんがしやうありといふ乃あふふ三平三身れん人といり
つる三平三身れん人といふ乃あふふ三平三身れん人といり
と勢身善女と八輪と執令那律となりり乃くの時
兼ハこれれんといふくよつまにむらあり

四

應以佛身得度者觀世音菩薩即現佛身而

為說法

乃乃あひさげんてううらんを搦乃あ
あは化佛然んたにちあなつちをさくしあをさる
ああしああくうんはを搦乃ああは八相しや
たうさうの勢身とがんとあつり

五

應以辟支佛身得度者即現辟支佛身而為



説法

佛之化身... 十二國... 説法

應以聲聞身得度者即現聲聞身而為説法

應以梵王身得度者即現梵王身而為説法

應以帝釋身得度者即現帝釋身而為説法

應以自在天身得度者即現自在天身而為説法

説法

應以自在天身得度者即現自在天身而為

説法

應以自在天身得度者即現自在天身

而為説法

摩醯首領... 摩醯首領

三十三

應以天大將軍身得度者即現天大將軍身

而為說法 天大將軍身得度者即現天大將軍身而為說法

三十四

應以毘沙門身得度者即現毗沙門身而為

說法 毘沙門身得度者即現毗沙門身而為說法

毘沙門身得度者即現毗沙門身而為說法

三十五

應以小玉身得度者即現小玉身而為說法

小玉身得度者即現小玉身而為說法

三十六

應以長者身得度者即現長者身而為說法

長者身得度者即現長者身而為說法

居士身 應以居士身得度者即現居士身而為說法

宰官身 應以宰官身得度者即現宰官身而為說法

波羅門身 應以波羅門身得度者即現波羅門身而為



中十三

説法

此の門より梵天の初初より... 此の門より梵天の初初より... 此の門より梵天の初初より...

七四

應以比丘比丘尼優婆塞優婆夷身得度者

即現比丘比丘尼優婆塞優婆夷身而為説

法 比丘比丘尼優婆塞優婆夷身而為説法

應以長者居士宰官婆羅門婦女身得度者

即現婦女身而為説法

應以童男童女身得度者即現童男童女身

而為説法

七五

應以長者居士宰官婆羅門婦女身得度者

即現婦女身而為説法

應以童男童女身得度者即現童男童女身

七六

而為説法

應以童男童女身得度者即現童男童女身

而為説法

應以天龍夜叉乾闥婆阿脩羅迦樓羅緊那

羅摩睺羅伽人非人等身得度者即皆現之

而為說法

而為說法 亦八天とわらうてのハセ曜九と九八宿
... 而為說法 ... 亦八天とわらうてのハセ曜九と九八宿 ...

應以執金剛神得度者即現執金剛神而為
... 應以執金剛神得度者即現執金剛神而為 ...

説法

純金剛經と云ふは凡そ三十三の辨定と云ふは佛説と
云ふは一の法すありしが凡そ三十三の辨定と云ふは
二の法すありしが凡そ三十三の辨定と云ふは
三の法すありしが凡そ三十三の辨定と云ふは
四の法すありしが凡そ三十三の辨定と云ふは
五の法すありしが凡そ三十三の辨定と云ふは
六の法すありしが凡そ三十三の辨定と云ふは
七の法すありしが凡そ三十三の辨定と云ふは
八の法すありしが凡そ三十三の辨定と云ふは
九の法すありしが凡そ三十三の辨定と云ふは
十の法すありしが凡そ三十三の辨定と云ふは
十一の法すありしが凡そ三十三の辨定と云ふは
十二の法すありしが凡そ三十三の辨定と云ふは
十三の法すありしが凡そ三十三の辨定と云ふは
十四の法すありしが凡そ三十三の辨定と云ふは
十五の法すありしが凡そ三十三の辨定と云ふは
十六の法すありしが凡そ三十三の辨定と云ふは
十七の法すありしが凡そ三十三の辨定と云ふは
十八の法すありしが凡そ三十三の辨定と云ふは
十九の法すありしが凡そ三十三の辨定と云ふは
二十の法すありしが凡そ三十三の辨定と云ふは
二十一の法すありしが凡そ三十三の辨定と云ふは
二十二の法すありしが凡そ三十三の辨定と云ふは
二十三の法すありしが凡そ三十三の辨定と云ふは
二十四の法すありしが凡そ三十三の辨定と云ふは
二十五の法すありしが凡そ三十三の辨定と云ふは
二十六の法すありしが凡そ三十三の辨定と云ふは
二十七の法すありしが凡そ三十三の辨定と云ふは
二十八の法すありしが凡そ三十三の辨定と云ふは
二十九の法すありしが凡そ三十三の辨定と云ふは
三十の法すありしが凡そ三十三の辨定と云ふは
三十一の法すありしが凡そ三十三の辨定と云ふは
三十二の法すありしが凡そ三十三の辨定と云ふは
三十三の法すありしが凡そ三十三の辨定と云ふは



多んとんとおんぼろのまゝひんあふつけて七日
 のあひさきおくの身とらんあふお然らかり初果
 おんさんといふてしつらん二日おんまゝといふ
 三つてその人として三日おんまゝといふ四つとげんとおんま
 五んとまゝといふその人として六日おんまゝといふ七日おんま
 てその人の中より七つてその人として八日おんまゝといふ九つ
 おんまゝといふ十日おんまゝといふ十一つてその人として十二日
 おんまゝといふ十三日おんまゝといふ十四日おんまゝといふ十五日
 おんまゝといふ十六日おんまゝといふ十七日おんまゝといふ十八日
 おんまゝといふ十九日おんまゝといふ二十日おんまゝといふ二十一日
 おんまゝといふ二十二日おんまゝといふ二十三日おんまゝといふ
 二十四日おんまゝといふ二十五日おんまゝといふ二十六日おんま
 ざておんまゝといふ二十七日おんまゝといふ二十八日おんまゝ
 といふ二十九年おんまゝといふ三十年おんまゝといふ三十一年おん
 まゝといふ三十二年おんまゝといふ三十三年おんまゝといふ三十
 四年おんまゝといふ三十五年おんまゝといふ三十六年おんまゝ
 といふ三十七年おんまゝといふ三十八年おんまゝといふ三十九年
 おんまゝといふ四十年おんまゝといふ四十一年おんまゝといふ四十
 二年おんまゝといふ四十三年おんまゝといふ四十四年おんまゝ
 といふ四十五年おんまゝといふ四十六年おんまゝといふ四十七年
 おんまゝといふ四十八年おんまゝといふ四十九年おんまゝといふ五
 十年おんまゝといふ五十年

中終

歌者神初後抄卷下目録

- 才一 くろくろくとさしひか下
- 才二 扇うらくとうけあふなな下
- 才三 うせ乃事
- 才四 中うらくとうけあふおんまゝ下
- 才五 扇うらくとうけあふおんまゝ下
- 才六 扇うらくと二つあふおんまゝ下
- 才七 扇うらくとわあふおんまゝ下
- 才八 扇うらくとわあふおんまゝ下
- 才九 りんあんとげどおんまゝ下
- 才十 三世十をう利あふ下
- 才十一 うしろあふおんまゝ下
- 才十二 うしろあふおんまゝ下

十三 くらあんなり下
 十四 すいぢりんのふ
 十五 さいぬまのしん
 十六 さいぬまのしん
 十七 さいぬまのしん
 十八 さいぬまのしん
 十九 さいぬまのしん
 二十 さいぬまのしん
 廿一 さいぬまのしん
 廿二 さいぬまのしん
 廿三 さいぬまのしん
 廿四 さいぬまのしん

廿五 さいぬまのしん
 廿六 さいぬまのしん
 廿七 さいぬまのしん
 廿八 さいぬまのしん
 廿九 さいぬまのしん
 三十 さいぬまのしん
 卅一 さいぬまのしん
 卅二 さいぬまのしん
 卅三 さいぬまのしん
 卅四 さいぬまのしん
 卅五 さいぬまのしん
 卅六 さいぬまのしん
 卅七 さいぬまのしん
 卅八 さいぬまのしん
 卅九 さいぬまのしん
 四十 さいぬまのしん

亦八
 亦九
 亦一
 亦二
 亦三

多んびらんまうらる
 かんかんときくさくかた
 げんかたのらる
 ぬきときくかんしゆら下
 八まんせんのらる
 びらんくれま
 わらくまうらるま

是故汝等應當一心供養觀世音菩薩是觀

世音菩薩摩訶薩於怖畏急難之中能施無

畏是故此娑婆世界皆号之為施無畏者

けのんはくしゆの流たありすてよまふらんらんらん
 ととれさうせんかたありすけふひくさて今らんえ
 とくやせりくすめあり純純をいふけちやせうの
 ひてせらんらんらんらんらんらんらんらんらん
 らんらんらんらんらんらんらんらんらんらんらん

無盡意菩薩白佛言世尊我今當供養觀世

音菩薩即解頸衆寶珠瓔珞價直百千兩金

卷之三

三

而以與之作是言仁者受此法施珍寶瓔珞
時觀世音菩薩不肯受之
此法施珍寶瓔珞
時觀世音菩薩不肯受之
いん乃言いんい
かづけのゆきまうせく
くびよりけのふやうらくととれぬあ乃ぬにうけむまうつ
さそんあまうせあふあり僕百子あ今さういじ
あんいんやうわくのあさつたはらひうけあふやうらくハ
あふひを舞うらん百子ああひんやうらんとつた更
百累子ハ子あ法法ハびつやういんやうらんとつた更
あさうつてさうらすかひらひんやうらんとつた更
付がとん親者とさんあり 目受法法乃しにうけまう
破綻と法施とあり又させはらひ今親奉儀のさうら
とつたはらひんやうらんとつた更
かゝらばさうらり又法施よ受のまうらふあ法乃せと
さうけハあ奉まうらんとつた更

四 無盡意復白觀世音菩薩言仁者愍我等故
受此瓔珞
無盡意復白觀世音菩薩言仁者愍我等故
受此瓔珞
いん乃言いんい
かづけのゆきまうせく
くびよりけのふやうらくととれぬあ乃ぬにうけむまうつ
さそんあまうせあふあり僕百子あ今さういじ
あんいんやうわくのあさつたはらひうけあふやうらくハ
あふひを舞うらん百子ああひんやうらんとつた更
百累子ハ子あ法法ハびつやういんやうらんとつた更
あさうつてさうらすかひらひんやうらんとつた更
付がとん親者とさんあり 目受法法乃しにうけまう
破綻と法施とあり又させはらひ今親奉儀のさうら
とつたはらひんやうらんとつた更
かゝらばさうらり又法施よ受のまうらふあ法乃せと
さうけハあ奉まうらんとつた更
五 爾時佛告觀世音菩薩當愍此無盡意菩薩
爾時佛告觀世音菩薩當愍此無盡意菩薩
いん乃言いんい
かづけのゆきまうせく
くびよりけのふやうらくととれぬあ乃ぬにうけむまうつ
さそんあまうせあふあり僕百子あ今さういじ
あんいんやうわくのあさつたはらひうけあふやうらくハ
あふひを舞うらん百子ああひんやうらんとつた更
百累子ハ子あ法法ハびつやういんやうらんとつた更
あさうつてさうらすかひらひんやうらんとつた更
付がとん親者とさんあり 目受法法乃しにうけまう
破綻と法施とあり又させはらひ今親奉儀のさうら
とつたはらひんやうらんとつた更
かゝらばさうらり又法施よ受のまうらふあ法乃せと
さうけハあ奉まうらんとつた更



因 即時觀世音菩薩愍諸四衆及於天龍人非
 人等受其瓔珞分作二分一分奉釋迦牟尼
 佛一分奉多寶佛塔
 及四衆天龍夜叉乾闥婆阿脩羅迦樓羅緊
 那羅摩睺羅伽人非人等故受是瓔珞
 分也

或遭王難苦 臨刑欲壽終 念彼觀音力 刀尋段段壞

或囚禁枷鎖 手足被桎械 念彼觀音力 釋然得解脫

咒咀諸毒藥 所欲害身者 念彼觀音力 還著於本人

或遇惡羅刹 毒龍諸 等 念彼觀音力 時悉不敢害



いんまのちりれさうんりさうのんか頭とふり
若悪獸圍繞 利牙爪可怖 念彼觀音力 疾走無邊方
いんまのちりれさうんりさうのんか頭とふり
三六 玩蛇及蝮蠍 氣毒烟火燃 念彼觀音力 尋聲自迴去
いんまのちりれさうんりさうのんか頭とふり
四七 雲雷鼓制電 降雹澍大雨 念彼觀音力 應時得消散
いんまのちりれさうんりさうのんか頭とふり
五八 衆生被困厄 無量苦逼身 觀音妙智力 能救世間苦
いんまのちりれさうんりさうのんか頭とふり

いんまのちりれさうんりさうのんか頭とふり
六九 具足神通力 廣修智方便 十方諸國土 無刹不現身
いんまのちりれさうんりさうのんか頭とふり
七〇 種種諸惡趣 地獄鬼畜生 生老病死苦 以漸悉令滅
いんまのちりれさうんりさうのんか頭とふり

真觀清淨觀 廣大智慧觀 悲觀及慈觀 常願常瞻仰

いりん乃ん六化地のこくく 無垢清淨光 慧日破諸闇 能伏災風火 普明照世間

悲體戒雷震 慈意妙大雲 澍甘露法雨 滅除煩惱焰

いりん乃ん六化地のこくく 無垢清淨光 慧日破諸闇 能伏災風火 普明照世間

此菩薩藏乃くもりつゝの川もあられの星たれ海あり
 ありすもりもあけ又後難右といひて水とすくあまそつは
 そのあどとたるるもあけそとくもかんともひひつん
 乃もあつとあはふ守のしほとあまのりぞくしあつとあ
 おたそつと^四いひんよつとそかんむ天とつとあかん
 のいそとそはあわりのけみとあかんむの附さげつとあ
 つのあ字とた乃多はあどあつとあむのむつとあれあ字と
 乃多にあつとあつとあつとあつとあつとあつとあつとあ
 かつとあつとあつとあつとあつとあつとあつとあつとあ
 大しれあん中となりとあひそあひ山とつとあつとあつとあ
 乃かんあつとあつとあつとあつとあつとあつとあつとあ
 今時持地菩薩即從座起前白佛言世尊若
 有衆生聞是觀世音菩薩品自在之業普門

示現神通力者當知是人功德不少
 此の人の神通力者當知是人功德不少
 佛說是普門品時衆中八万四千衆生皆發心
 佛説是普門品時衆中八万四千衆生皆發心
 無等等阿耨多羅三藐三菩提心
 無等等阿耨多羅三藐三菩提心
 乃とれあつとあつとあつとあつとあつとあつとあつとあ
 のひひれあつとあつとあつとあつとあつとあつとあつとあ
 かつとあつとあつとあつとあつとあつとあつとあつとあ
 とあつとあつとあつとあつとあつとあつとあつとあつとあ
 乃みのいそとあつとあつとあつとあつとあつとあつとあつとあ

海日如る月してまの久にのあり
○六人んとん乃支

曹
大悲観音

百
大慈観音

十
獅子鬘観音

十
大光普照観音

十
天人丈丈観音

又の中はに觀ぞ、又の中は淨よ六を空海素た
子光眼をまくけがらけと梅念としけ破戒
乃つととめりしと地うたの者とまぬる
又觀觀よ觀とばわらと梅念としけけん
とん乃つととめりしとがこら乃らうととの
又の觀よ觀にばわらと梅念すれはまんい
のつととめりしと觀は乃くとまぬるあり
又半觀よをばわらと梅念すれは觀亂のつ
とめりしとあら乃らくとまぬるありあり
又六の觀よを今んとばわらと梅念す
梅念とばわらと梅念としわら
乃らうととめりしと觀は乃くとまぬるあり

十
大慈源を觀者

又の中は觀とばわらと梅念としわら
ちのつととめりしとあら乃らくとまぬるあり
又六人んとんのり大の觀者、業を觀者、六字観
音、善觀觀者、おの觀觀者、おこれありしつとと
中ととめりし

乃らうととめりしとあら乃らくとまぬるあり
乃らうととめりしとあら乃らくとまぬるあり
乃らうととめりしとあら乃らくとまぬるあり
乃らうととめりしとあら乃らくとまぬるあり
乃らうととめりしとあら乃らくとまぬるあり

天和三年 三月吉日

江戸日本橋通計丁目
小川喜九郎板

